

2023年11月6日
東京海上ディーアール株式会社

TdRによるサイバーセキュリティ人材育成

ISC2 認定資格「Certified in Cybersecurity」トレーニングについて

パートナー契約を締結

東京海上ディーアール株式会社（代表取締役社長：堤 伸浩、以下「東京海上ディーアール」）は、2023年10月25日に、サイバーセキュリティの世界最大の資格団体であるISC2¹の認定資格であるCC (Certified in Cybersecurity) を取得するための公式トレーニング「CC トレーニング」について、パートナー契約を締結いたしました。

ISC2 ならびに東京海上ディーアールは、パートナーシップ契約締結を記念し、2023年10月25日に、米テネシー州ナッシュビルで開催された、サイバーセキュリティ業界の国際会議「ISC2 Security Congress」の場で、調印式を行いました。



CC 認定資格は、初級または基礎レベルのサイバーセキュリティの職務に必要な基礎知識、スキル、能力を有していることを証明できる国際的に認められた資格で、実務経験がない方でも取得が可能です。現在、世界中で約 3.6 万人が CC 認定資格を取得しています。

¹ 1989年に米国で設立されたNPOで、世界175カ国で約16.8万人の会員を擁する。日本での会員数は2022年11月時点で、4,094名。サイバーセキュリティの専門家資格を認定し、生涯にわたる専門的なセキュリティ教育を提供しており、セキュリティ専門職の成長と成功をグローバルでサポートしている。

東京海上ディーアールは、「CC トレーニング」に関する本パートナーリング契約に基づき、今後「CC トレーニング」の提供を行い、一人でも多くの資格者を増やすことで、サイバーセキュリティ人材の裾野を広げ、日本のサイバーセキュリティ分野の発展に貢献してまいります。

1. 背景

日本におけるサイバー攻撃被害は、企業の規模や業種に関係なく発生し増大の一途を辿る一方で、サイバーセキュリティ人材は質的にも量的にも不足しており、人材育成は喫緊の課題とされています。ISC2 の調査²によると、アジア太平洋地域では、約 267 万人のサイバーセキュリティ専門家が不足しており、同地域においてサイバーセキュリティ専門家が最も多い日本でも、約 110, 000 人のサイバーセキュリティ人材が不足しているとされています。

2. 国際資格が求められる理由

サイバーリスクは自然災害等とは異なり、その脅威は人間（攻撃者）によってもたらされます。また、サイバー攻撃者の多くは外国人であり、サイバー攻撃に対する適切な予防・対応を行うためには、セキュリティのグローバルスタンダードの知識や考え方が求められます。

3. CC（Certified in Cybersecurity）認定資格の特徴

CC 認定資格試験は、サイバーセキュリティの世界最大の資格団体である ISC2 が整備した共通知識体系（CBK）³に基づいて出題されるので、CC 認定資格を取得することで、グローバルスタンダードなセキュリティの知識を有することを国際的に証明することができます。

CC 認定資格は、これからのサイバーセキュリティ業界を担う学生をはじめ、実務経験がない方にも門戸が開かれた入門資格と位置付けられており、サイバーセキュリティ人材の裾野を広げるとともに、有資格者がさらに経験を積むことで、ISC2 が認定する最上位資格の「CISSP」や、専門分野に特化した「SSCP」、「CCSP」といった上級資格を目指すためのキャリアアップの第一歩となります。

² 「(ISC)² Cybersecurity Workforce Study」の 2022 年版より

³ 1989 年に (ISC)² が整備・体系化したセキュリティ業界の共通知識体系。セキュリティ分野におけるグローバルレベルの共通知識、ベストプラクティスを網羅的にまとめたもの。

東京海上ディーアールは、今回の「CC トレーニング」に関する本パートナーリング契約に基づき、今後「CC トレーニング」の提供を行い、サイバーセキュリティの人材育成事業に注力することで、日本のサイバーセキュリティ人材不足という社会課題の解決の一端を担い、企業や社会が安心して活動できるセキュアなサイバー領域の構築に貢献してまいります。

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先

東京海上ディーアール株式会社（担当：三宅）TEL. 03-5288-6674